

北上市消防団が特別表彰「まとい」に輝く

特集 脈々と受け継がれる 郷土愛と高い志



全国で約2200ある消防団のうち毎年10団のみに与えられる特別表彰「まとい」。昨年度にまといを東北で唯一受賞したのが、北上市消防団です。第74回日本消防協会定例表彰式が3月4日にニッショーホール（東京都）で行われ、高橋団長らにまといが手渡されました。

まといは昭和54年に創立された日本消防協会の表彰制度で、受賞するには厳しい要件があります。北上市消防団は合併前の和賀町消防団の時代に消防庁長官表彰旗を受賞したほか、平成15年には日本消防協会表彰旗を受賞。操法大会では第5分団第2部や女性消防隊「北上さくら隊」が全国大会に出場するなど、長年にわたり抜群の成績を保持し続けたことが評価され、まといの受賞に至りました。その裏側には脈々と受け継がれた郷土愛や高い志、団員のたゆまぬ努力、家族のサポートなどがありました。

今回の特集では、まとい受賞までの足跡をたどりながら、消防団の活躍を紹介します。



第24回全国女性消防操法大会(令和元年)



消防庁長官表彰旗受賞
記念式典(昭和52年)



日本消防協会表彰旗受賞
表敬訪問(平成15年)

Interview



団長を務めた7年間は
最高の期間でした

菊池 一人 前団長

昭和52年に入団し、平成26年から令和3年まで団長を務め上げた。本年度、春の叙勲で消防功労により瑞宝双光章を受章。

団長になってすぐに副団長で退団された先輩から「かず、まといを狙えよ」と声をかけられ、まといのことがずっと頭の中にありました。北上市は40～50年前からの先輩方の実績のおかげもあって、厳しい要件を満たしていたため、県の審査会で声を上げ、満場一致で北上市の推薦が決まりました。

また、消防演習では他の消防団で実施しているレベルの高い部隊訓練を取り入れ、自ら指揮を執り訓練しました。

団長を務めた7年間は操法全国大会への2年連続の出場や消防功労者消防庁長官表彰竿頭授の受賞のほか、多くの出会いがあり最高の期間でした。



入団したからこそできた
人とのつながりは宝です

高橋 信博 団長

昭和53年に入団し、令和3年から団長を務める。家業の建築板金業に励みながら、団を士気高揚へ導く。

表彰式では、厳かな雰囲気の中、まといが手渡されました。これは消防団の歴史と伝統を築いてこられた先輩方、昼夜問わず消防団の活動に励んでいる団員、市民の皆さんの支援のおかげであり、感謝の言葉しかありません。また、菊池前団長のご尽力のおかげでもあります。

消防団に入団したからこそできた人とのつながりは宝です。今後も団員の安全確保を第一とし、いざというときのために訓練に励んでまいります。また、災害から自分や大切な人を守るためにも、水害時マイタイムライン※を市民の皆さんに活用してもらえればと思います。

※水害時マイタイムライン

豪雨や台風などで河川の水位が上昇するときに自分がどのように行動するか整理し、決めておくもの。いざというときのために、今から備えておきましょう。



- 【昭和22年】消防団令公布
- 【昭和23年】市内の旧町村で消防団が発足
- 【昭和52年】和賀町消防団が消防庁長官表彰旗を受賞
- 【平成3年】旧北上市、和賀町、江釣子村が合併し、北上市消防団が発足
- 【平成6年】全国婦人消防操法大会で県内初の優秀賞受賞
- 【平成15年】日本消防協会表彰旗受賞
- 【平成30年】第26回全国消防操法大会「小型ポンプの部」に第5分団第2部(飯豊)が出場
- 【令和元年】第24回全国女性消防操法大会に「北上さくら隊」が出場
- 【令和3年】消防功労者消防庁長官表彰竿頭授受賞
- 【令和4年】特別表彰「まとい」受賞

北上市消防団の歩み

自分たちのまちは、 自分たちで守る 愛する人を守るため、 大切な地域を守るために 今までも、これから



重要な役割を担う消防団員

火災があったとき、誰が消火活動にあたるかご存じでしょうか。多くの人は消防署に勤務する消防士が思い浮かぶかもしれませんが、実際に出勤するのは消防士と消防団員です。団員は消火活動にあたるほか、危険な場所では消防士の後方支援を行います。また、火災後は再燃しないか現場で待機して安全を確保するなど重要な役割を担っています。

私たちを守ってくれる地域のヒーロー

北上市消防団は13分団64部で構成され、890人（うち女性21人）が在籍しています。消防団は一般市民によって組織され、団長や副団長、分団長などが置かれているほか、ラッパ隊も所属し、それぞれの役割で消防防災活動に取り組んでいます。火災のほか台風や地震などの災害時に出勤してくれる消防団。彼らは私たちを災害から守ってくれる地域のヒーローなのです。

Interview



えいすけ
菅原 英典 さん(41歳・孫屋敷)
平成14年に入団。植生管理士や自然再生士の仕事をしながら第2分団第2部で班長を務める三児の父。

地域貢献したいという気持ちで消防団の活動をしています。家族の協力が必要不可欠のほか、有事の際は仕事を抜けなければいけないため会社の理解も必要だと思います。

消防団の活動をして人とのつながりができたことが嬉しいです。今は共働きの家庭も多く、家族との時間も大切なので、できる範囲でやっていくことも大切だと思います。



あゆみ
谷村 歩 さん(35歳・九年橋)
平成19年に入団し、第1分団第2部に所属。全国女性消防操法大会に出場した成績を持つ一児の母。

本当に周りの人に恵まれているなと感じます。皆さんが声をかけてくれて、人の輪がどんどん広がっていきます。

女性操法で全国大会に行ったときは全体練習だけで400回以上練習しました。大人になってここまで打ち込めることはなかなかないので、幸せに感じます。今後は火を消すだけでなく、子どもたちに防災の教育もしていきたいです。



①春季災害防御訓練で吹雪の中でも訓練に励む②市消防操法競技会当日。大会前は早朝から練習する分団も③出初式で防災の意欲を高める④式典に華を添えるラッパ隊⑤消防演習を見ながら消防車のおもちゃで遊ぶ子ども⑥消防演習の放水訓練⑦鮮やかな放水に魅了される市民⑧分列行進で市長の観閲を受ける団員⑨消防団を支える北上市婦人消防協力隊⑩市本庁舎1階のロビーに飾られているまとい

■過去5年間の市内の災害別件数と消防団の出動回数

	市内の災害件数	消防団の出動回数
火災	157	123
水害(避難所開設)	3	3
地震	5	5

このほか、知識や技術を習得するための研修や日頃の訓練など有事の際に備えています。

そして、災害があったときには昼夜を問わず、ときには仕事より優先して出動しています。

団員のたゆまぬ努力によって私たちの安全は成り立っているのです。

多岐にわたる消防団の活動

1月の「消防出初式」に始まり、3月の「春季災害防御訓練」、4月の「消防演習」、6月の「消防操法競技会」、8月に行われる北上・みちのく芸能まつりでは花火で火災を起こさないための警戒、11月には火災予防のために消防車で地域を巡回する「秋季火災予防運動」などさまざまな活動をしています。

時代に合った活動を

「令和の時代に合った活動を」と語る高橋団長と菅原班長。以前は自営業者が多く在籍していましたが、近年は会社務めの共働きが大半を占めます。

高橋団長は「出動できるときに協力してもらい、家族も大切にしながら地域も守っていけるよう活動していきたい」と、新しい時代に合った消防防災活動を提唱しています。

課題は担い手不足

近年課題となっているのが団員の減少です。消防団は各地域での防災活動のほか、自分の地域の災害時には率先して出動し、人々を支えています。支援の手が少なくなると、助けられる命も救えません。それぞれの地域には団員の協力が必要不可欠です。

今回インタビューした全員が口をそろえて話していたことは、消防団に入り、人とのつながりが広がってうれしいということです。

地域を守るためには地域の人のコミュニケーションが大切です。また、人の輪が広がっていくからこそ郷土愛が生まれ、この地域を守りたいという志が高まります。この思いは先人から代々受け継がれており、地域のためにやりたいという思いが活動の原動力になっています。

人とのつながりを大切に だからこそ生まれる郷土愛と高い志

消防団員募集中！

「自分たちのまちは、自分たちで守る」という精神に基づき活動している消防団。あなたも一緒に地域を守っていきませんか？

消防防災活動に少しでも興味がある人はお問い合わせください！



■問い合わせ…危機管理課 ☎72-8305

